「共に与る者」

マルコによる福音書１４章：１－１１節

森島　牧人　牧師

今日の聖書は、主イエスがベタニアで香油を注がれるという物語が中心で、前後には祭司・律法学者らの主イエス殺害の計略とユダの裏切りの陰謀が記されています。主を殺す計画では、首謀者たちは民衆の騒ぎを避けるために過越祭・除酵祭が過ぎてからと考えていたのですが、実際にはそれは祭りの日に起こりました。これは主の殺害が単なる人間の計略によるのではなく、ユダヤの民が禍の通り過ぎた後急いでエジプトを脱出した旧約の出来事と同じように、人間の贖罪に基づく神の計画であることを示しています。

このダブルステージはユダの裏切りでも同じで、マルコ 14：10-11 ではユダの行為を「引き渡す」と能動態で表現しているのですが、「人の子は、人々の手に引き渡され、」（マルコ９：３１）、「人の子は罪人たちの手に引き渡される」（同１４：４１）などの主ご自身の受難の予告や聖餐式の式文「主イエスは引き渡される夜、」（Ｉコリント１１：２３）では受動態が用いられています。そこから、主イエスが引き渡されるのはユダからではなく、背後におられる神からであることが分かります。特に、「人の子は・・・三日の後に復活することになっている」（マルコ８：３１）の「must」からは神の必然性が見えます。企んだ者たちの思いとは違った形で展開して行く謀略、まさに神の計画とのダブルステージです。そしてその神の計画は、すべての人類の罪の贖いのためであると聖書は告白しています。そのことを示す福音が、今日の聖書の中心である「香油を主イエスに注ぐ女」の振る舞いに隠されているのです。

このナルドの香油の物語は四つの福音書すべてにあり、初代教会がいかに大事にしていたかが伺えます。厳しい日々を過ごされた主イエスはオリーブ山で「終末の黙示」を語られた後ベタニアの村に入り、かつて主に病を癒されたシモンの家に身を寄せてひと時の休息をとられます。そんな主が食卓についておられた時、突然良い香りが家中に充満します。詩篇２３：５に「わたしを苦しめる者を前にしても　あなたはわたしに食卓を整えてくださる。わたしの頭に香油を注ぎ　わたしの杯を溢れさせてくださる。」とあるように、まさに、敵の総攻撃が火蓋を切る直前に、記念すべき出来事、つまり神の力を受ける徴としての主イエスへの「油注ぎ」が、祭壇、祭司、式文などを欠いた中で、無名の一人の女によってなされたのです。この結果、この女の行為は、「・・・埋葬の準備をしてくれた。はっきり言っておく。世界中のどこでも、福音が宣べ伝えられる所では、この人のしたことも記念として語り伝えられるだろう。」（同１４：９）との主ご自身の思いの溢れる言葉の通りとなって、世々の教会は手掌の宝物のように、この物語を語り伝えて来たのです。

この時の主の「記念として」は、新約では他には最後の晩餐の時にのみ使われていて、パウロはこれを聖餐式の制定語に引用しています。それは「『・・・飲む度にわたしの記念として行いなさい。』と言われました。そして、「だから、あなたがたは・・・主が来られるときまで、主の死を告げ知らせるのです。」（Ｉコリント１１：２５－２６）とあるように、聖書に於いて「記念として」すべきこととは主の＜死＞でありました。それ故に、この女の＜行為＞もそれと共に記念とされたのです。主がメシア・キリストとなるために必要不可欠な「油注ぎ」だったのです。このかりそめではなかった女の思いと行動は、生きる希望の＜根拠＞として神から全人類へ与えられた、主イエスの十字架を象徴して意味づける重大な役割を与えられ、今も聖書の中で、教会の歴史の中で光り輝いています。

壺を壊して高価な香油を主に注いだ女の行為は、多くは主への敬愛によるものと思われていますが、ある牧師は「それと紙一重のところに女の深い、深い絶望を見る」と言います。主の死と結びついた絶望的な行為、絶望的なほどの主への信頼だと言うのです。表は信頼、裏は絶望である行為、それは生きることを断念して初めて達成出来る行為で、女はここで死んだということであります。つまりこれは、バプテスマに於いて水に沈められ死んだ私たちです。無自覚に主イエスのところへ来て、無我夢中でそれまでの価値観を割って死ぬ。それによって主イエスに受け入れられた、これがバプテスマに与ったと言うことだからです。その時人は初めて、自身の中の絶望の深さの意味が、また自分の罪の大きさに思い至るのです。

壺を割った女の行為、それはまさに、生活費のすべてであったレプタ銅貨２枚を献金箱に投げ入れた女やもめと同じ＜終末的な行為＞でした。つまりこの女はここで主にあって（In Christ）死に、しかし次の瞬間、主イエスの出来事である＜死と復活＞に「共に与る者」とされたのです。それは、主にあって（In Christ）新しい命に生きるためだったのです。

（説教要約　羽入田悦子）